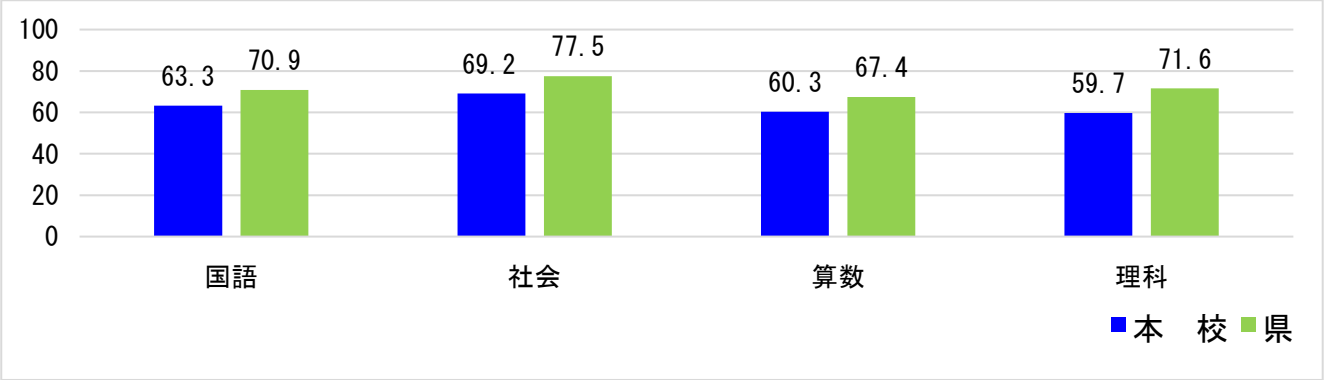
令和４年度　鹿児島学習定着度調査結果

１　令和４年度　鹿児島学習定着度調査結果（県と比較）



２　成果（〇）と課題（●）

（１）国語

〇　「書く」能力は一昨年度は 56.4%、昨年度は 62.8%、今年は 70%と年々向上している。漢字の書き取りやローマ字表記については概ね定着している。また、無答率が 0.6%だったので、ほとんどの児童が最後まで粘り強く問題に取り組むことができた結果だと思われる。

●　「知識・技能」の通過率は 68.6%、「思考・判断・表現」の通過率は 57.3%であった。特に「思考・判断・表現」分野については、問題の意図を理解できずに尋ねられことに対して答えられなかったと思われる解答が多く見られた。

●　「主語・述語」の関係（中学年：通過率 31.3%）や「敬体と常体」（高学年：通過率 36.1%）など授業の中だけの指導ではなく、日頃書かせている日記の指導等で行う必要がある。

●　「資料等を活用し、自分の考えが伝わるように表現する問題」（通過率：18.9%）に対しては、ほとんどの児童が的確な解答ができていなかった。理由は、問題文の読み取りができていないこと、根拠となる条件が何かを理解できていないことが原因と思われる。

（２）社会

〇　「知識・技能」の通過率は 75.0%、「思考・判断・表現」の通過率は 57.6%であった。特に「知識・技能」分野の学習内容については、概ね定着していると思われる。

●　「思考・判断・表現」分野において通過率が著しく落ちている問題に共通することは、児童の説明力が丁寧ではないことであった。解答の仕方が簡単で雑な傾向が見られるため、落とした問題も多く見られた。

●　小５の「日本の主な海流を答える問題」（通過率 32.7%、34.1%）において、「寒流と暖流」を「親潮・黒潮」と解答した児童が多数いた。問題文を正確に読み取れないことが原因であると思われる。

（３）算数

〇　「知識・技能」の通過率が 69.8%、「思考・判断・表現」の通過率は 44.4%であった。特に「数と計算」領域の問題については、通過率が 70.4%と概ね定着していると思われる。

●　「思考・判断・表現」の通過率が落ち込んでいる原因は、解答のおおよそは正解しているものの、説明の仕方が丁寧ではないために、正解を得られない児童が多くいたからである。

●　三角形の問題において、説明の際に使用する三角形の呼び方を「三角形アイウ」と表現することができなかった児童が多数いた。通過率は 32.3%であった。

（４）理科

〇　「知識・技能」の通過率は 65.7%、「思考・判断・表現」の通過率は 52.4%であったが、無答率が 0.6%だったので、ほとんどの児童が最後まで粘り強く問題に取り組むことができた結果だと思われる。

●　小３の音の問題（通過率 39.3%）と方位磁針の問題（通過率：37.9%）、小４の乾電池の問題（通過率：31.7%）に課題が見られた。

●　「実験結果をもとに、水温と水に溶ける量とを関連付けて説明する問題」（通過率：30.8%）や「天気の変化と雲の動きを関係付けて説明する問題」（通過率：35.7%）に課題が見られた。

３　今後の対応

・　今回の結果を受け、定着していない部分が明確になった。定着していなかった問題を再度解かせ、説明し指導している。４月に実施予定の令和５年度の全国学力・学習状況調査につなげたい。

・　出題の指示どおりの解答していないことが、今回の結果につながった。文章の読み取り能力を高めたり、丁寧な説明を文章で書いたりできるように指導する必要がある。